

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区

河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁～4頁 ありがとう、ジャクソン神父様

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2019年 司教年頭書簡を読む(3)

福音的《もてなし》

「よいサマリア人のたとえば、何よりも二つの重要なことを明らかにします。当時、『隣人』という概念は基本的に、同郷人とイスラエルの地に定住した外国人を指しました。いかえると、それはある地域または民族のまとまった共同体を意味しました。イエスはこの限定を取り去ります。わたしを必要とする人、またわたしが助けることのできる人はだれでも、わたしの隣人なのです。こうして、『隣人』の概念は普遍化されますが、同時にそれは具体的なものであり続けます。『隣人』は全人類にまで広がります。にもかかわらず、それは一般的また抽象的で拘束力のない愛を表すのではなく、わたしが今ここで具体的な取り組みを行うことを求めます。教会の務めは、教会に属する人の実際の日常生活と関連づけながら、この遠隔地と近隣の関係をつねに新たに解釈し直すことです。」(教皇ベネディクト十六世、回勅「神は愛」15)

年頭書簡には「善きサマリア人のたとえば、そうすることが正当かどうかという枠を



善きサマリア人のたとえ

こえて、みずから進んで、限度を決めずに、その人との関わりを大切にすることを教えています」とあります。

日本の教会は、今、多国籍共同体になりつつあります。国籍を超えた神の民として、すべての人と手を取り合って歩んでいくことが求められています。

(瀧野正三郎)

5
2019

ありがとう、ジャクソン神父様

菅原友明

(広報委員会)

京都教区で60年にわたりご活躍されたジェームス・ジャクソン神父様（メリノール宣教会）が今年の復活祭をもって引退されました。3月10日、引退を控えた神父様を草津教会に訪ねてお話を伺いました。

雨の草津

雨の降りしきる中、草津駅から15分ほど歩いて、約束の午後5時に司祭館に着すると、ジャクソン神父様はお弁当を用意して待っていてくださいました。台所で、



インタビューにて

カップみそ汁用にお湯も沸かしてくださいませ。なかなか沸かないやかんを見つめながら、今日はどんな一日でしたかとお尋ねすると、草津教会の2回の

ミサ、さらにスペイン語のミサがあり、その間には、ほっこりタイム（交流会）とピアノコンサートにも参加されたそうです。現在89歳。ご引退を間近に控えながらもフル稼働でご多忙の毎日です。お弁当を食べ終わると、「どうぞ座ってください」とおっしゃるので、お言葉のとおり一人で座っていると、台所の方からパッケージを開封する音や何かを洗う音が聞こえてきて、しばらくすると大粒のイチゴにたっぷりヨーグルトをかけたデザートを持って、神父様が現れました。クラブハリエのクラシック・ショコラも出てきます。そして、いつものように、豆を挽いてコーヒーを入れてくださいます。こうして、デザートをいただきながら、ようやくインタビュー開始です。

マリアの丘

「お生まれになったのはいつですか？」

「昭和4年4月6日です」。

ご出身は米国ニュージャージー州で、子どもの頃はアメリカンフットボールが大好きでした。子どもながらにアメフトユニフォーム一式を身にまとい、プレイングしていました。消防士だった祖父の影響で、将来の夢は消防士でしたが、やがて、船に憧れて、商船マンを目指そうと思いました。高校時代のある日、慕っていた神父様から司祭にならないかと誘わ

れて召命を考えました。でも、神学校に入って自由がなくなるのは心配でしたし、その神父様（教区司祭）が住んでいた古い司祭館の「ばけもの屋敷」のような雰囲気にも気が滅入りました。それより、外国に宣教に行きたい思いが強く、高校卒業後、ペンタゴン（国防総省）近くの入り江でマリナーナ建設の仕事をした後、19歳の時にメリノール宣教会に志願しました。

「ところで、メリノールってどんな意味なんですか？」

「メリーはマリア様。ノールというのは山です。メリノール会の本部はニューヨークのその山の上にあります」。

「どこの国に宣教に行きたかったのですか？」

「中国です」。

当時のメリノール会は中国で活発な宣教活動を行っていたのです。ただ、中国での宣教が難しい情勢となり、南米へ行きたいと思いました。そんな



司祭叙階60周年(2018年)

ジャクソン神父様に、日本派遣の任命がくだりました。まだ司祭叙階もされてない1958

年4月のことです。同年6月に司祭に叙階され、その後すぐに日本へ渡ったわけですから、神父様は司祭生活の最初からまるまるすべてを日本に捧げてくださったことになります。

伊勢湾に漂う

メリノール会の日本宣教は戦前に滋賀県で開始されていて、ジャクソン神父様が来日された当時、約90人もの会員が日本で働いていたそうです。

「日本に派遣されることが決まった時、どう思いましたか？」

「あそこには賢い先輩ばかりいる…。難しい日本語ができるようになるだろう…」。

そんなことを考えたそうですが、もちろん、宣教会に入った以上は、どこへでも喜んで行く覚悟はできていました。こうして4人の同級生と共に日本への船に乗り込みました。29歳の時でした。大阪へ行くはずの船でしたが、故障のために名古屋に臨時寄港。日本語もわからずドル紙幣しか持たずに街に出て、南山大学のキリシタン研究家、田北耕也氏に会いに行くという「冒険」をして、あやや迷子になりました。神父様が初めて見た日本の街は名古屋だったのです。故障が直って名古屋港を出港すると、今度は嵐のために伊勢湾から出られず、船は津

の沖に停泊します。このお話を聞いていると、後にそこで働くこととなる津や鈴鹿や伊勢の街々を、嵐の海の上から遥かに望んでいた若き日のジャクソン神父様の姿が脳裏に浮かんできました。

楽しかった！

この後、船は無事に大阪に到着し、京都にも立ち寄った後、東京へ。東京で一年、京都で一年、日本語を勉強しました。京都では、週末は長浜教会まで行って実習です。木ノ本の分教会にも通い、そこで触れた当時の日本の農村共同体の生活が新鮮で、その素晴らしさに感心するようにもなっていました。アメリカと大きく異なる日本の文化や食べ物に困ることはありませんでしたが、湖北の寒



さはこたえたそうです。日本語の勉強が終わると、そのまま長浜教会に任命されて2年間働くことになりました。当時の長浜教会は、傾いていた古い日本家屋で、その様子を懐かしそうに語られました。その後、伊勢教会にのべ5年、

上野教会に1年半、鈴鹿教会に5年、津教会にのべ20年（うち津南教会に3年）と歴任され、1996年に現在の草津教会に赴任しました。草津には23年いたことになりました。津では、セントヨゼフ女子学園の宗教の講師も20年間務めました。また、若い頃は青年たちと熱心に関わりました。当時は三重県内の紡績工場などに集団就職する若者が多く、教会は故郷を離れて暮らす青年達の拠り所ともなっていたようです。「青年達とスキーに行ったり海に行ったり、遊んでばかりでしたよ。楽しかった」。多くの人との素晴らしい出会いに恵まれて、日本での60年を「本当に楽しかった！」とふりかえられました。

リーダーシップ

「つらかったことはありますか？」

「言いたくないね」と、多くは語られませんでした。それは「リーダーシップ」をめぐる葛藤だったようです。

「私のやり方に問題があった。そのことは自分でも気づいた」。

当時の管区長様の勧めで、半年間の休暇をとることになり、アメリカでカテケシス、リーダーシップ、実存主義、そしてカウンセリングの勉強をしました。このときの一連の経験を活かして、日本に戻ってからは、教会や学校で



韓国との交流ミサ

エンカウンター等の体験学習を指導できるようになりました。マリッジエンカウンターも大切な仕事でした。また、鈴鹿にいた頃、一時期病気を患いました。が、その時はアメリカから妹さんがいらして2か月間ほど一緒に住んで世話をしてもらえたそうです。「失敗もあったけれども、まあ、それも含めてぜんぶ楽しかった」。

信じているさ

「宣教師をやめて帰りたいになったことは?」「ありません!」「司祭をやめたくなったことは?」「ありません!」まったく躊躇なくお答えになりました。そして、「本当にこれは恵みでした」と付け加えました。「どうしてキリスト教が好きなんですか?」ちょっと間拔けな質問になってしまいましたが、それに対して神父様は、まず、「信じているさ」と答えられました。…神様がいることを知っている…共同体は家族のよう…神様

が働いておられることがわかる…聖霊のパワーもわかる…。まったく無理のない自然体の語らいが続きます。「好きな聖書の言葉は何ですか?」「カッコつけてるようですがヨハネ福音書はすごい。説明しようがないです」。あえて「どの言葉が特に好きですか?」などと聞くのが野暮に思えるような聖なる空気が漂いました。「日本の教会にメッセージを」「がんばってね」。福音宣教は、理屈や理論で伝えるのではなくて、使命感だけで伝えるのでもなくて、「その人がその人を生きる」という単純素朴なことによって伝わっていく。存在そのものが語っているような、何の気負いもないジャクソン神父様の語らいを聞いていて、そんなふうに感じさせられました。

優しい雨

コーヒーが出来上がっているのも忘れて集中して答え続けてくださいました。

「コーヒーを飲みましょう」

「ああ、すっかり忘れていた」。

そう言って、いつものように、マグカップになみなみとコーヒーを注いでくれました。いつのまにか外の雨がかなり強くなっているようです。でも、やわらかな優しい音です。

「これからしたいことは何ですか?」

「何かしたいね。休むことはできない」。

私は仕事中毒、仕事がなかったら禁断症状がでます」。

引退後もしばらくは唐崎のメリノールハウスに滞在されます。ミサの司式も手伝ってくださる予定です。

「今日は遅くまで本当にありがとうございますございました」。

「こちらこそありがとうございます。お皿はそのままにしておいてね。あなたはゲストだから、片づけたら承知しません」「ではお言葉に甘えて」。

一緒にエレベーターを降りて教会の入り口まで見送ってくださいました。雨の中を草津駅に歩きながら、存在そのものの温かさのようなものが、体から離れなくて、パウロの言葉が思い出されました。

「わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、霊と力の証明によるものでした。それは、あなたがたが人の知恵によってではなくて、神の力によって信じるようになるためでした」(Iコリント2章4〜5節)。

60年にもわたって、日本の人々に神様の愛を伝え続けてくださった、ジャクソン神父様に心より感謝申しあげます。神父様のこれからの歩みの上に、神様の恵みが豊かにありますようにお祈りいたします。

5 月のお知らせ

教 区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊥㊦

聖書講座

旅する神の民 私たち 皆 寄留人
ー共に住み、共に歩むー

日 時：23日㊥ 10:30

テーマ：共に生き、共に住み、共に歩む、
共観する、私たち寄留人

講 師：大塚 喜直司教

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

よく分かる聖書の学び

日 時：22日㊥ 10:30

講 師：北村 善朗師／参加費：300円

会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

京都教区カトリック正義と平和協議会

／Tel.075(223)2291 ㊥

学習会「キリスト者として死刑にどう

向き合うか 死刑は福音に反する」

日 時：18日㊥ 14:00～16:00

講 師：柳川 朋毅

(イエズス会社会司牧センター)

場 所：桃山教会

修 道 会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457

水曜の黙想(九里 彰師)

日 時：15日㊥ 10:00～16:00

テーマ：誰が一番偉いか？

参加費：3,000円

土曜の黙想(中川 博道師)

日 時：18日㊥ 13:00～18:00

テーマ：“我”に立ち返る時

参加費：2,000円

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：12日㊥ 14:00／25日㊥ 18:00 ミサ奉仕後
カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：9日㊥ 10:00／23日㊥ 10:00／30日㊥ 10:00
カトリック会館6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話ミサと交流会

日 時：18日㊥ 13:00～15:30

場 所：奈良教会

京都キリシタン研究会

都の聖母奉賛ミサ

日 時：12日㊥ 14:00～16:00

場 所：山科教会

自由参加：ミサ後、交流の集い

問 合 せ：090(2381)4630 古澤

望洋庵／Tel.075(366)8337

青年のための聖書講座

日 時：16日㊥／30日㊥ 19:00～21:00

指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師

キリスト教講座①

日 時：15日㊥／29日㊥ 19:00～21:00

指 導：大塚 乾隆師

対 象：これから洗礼を希望する青年

キリスト教講座②

日 時：8日㊥／22日㊥ 19:00～21:00

指 導：大塚 乾隆師

対 象：青年

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー・ケーブル)スカイA

毎週土曜日 朝7:45

シリーズ「自分を深く知るために」

出演は Sr. 小野 恭世(イエズス孝女会)

ラジオ(KBS京都) ㊥～㊦ 朝5:55

㊥ 朝5:15

5月のテーマ「母のぬくもり」

教区聖書委員会からのお知らせ

※ 聖書委員会主催の聖書講座を録音したCD一
覧冊子2019年度版(2008年～2018年掲載)を
作成しました。ご希望の方は、聖書委員会宛に
Fax.075 (211) 3910 か seisho@kyoto.catholic.jp
に住所、氏名、電話番号を明記してお申込みく
ださい。

教区広報委員会からのお知らせ

※ お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日まで
に教区本部事務局宛に Fax.075 (211) 3041か
honbu@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を
明記してお寄せください。

※ 7月号の原稿締切り日は5月15日㊥です。

大塚司教の

5月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 2日(木) - 3日(金) 広島教区 津和野乙女峠まつり
 3日(金) - 6日(月) 厳律シトー会
 安心院の聖母修道院 訪問
 9日(木) 10:00 中央協 常任司教委員会
 東京カトリック神学院 常任委員会
 11日(土) 13:00 日星高校創立90周年 記念式典
 12日(日) 14:00 教区新信者のミサと集い
 (河原町教会)
 13日(月) - 14日(火) 司祭親睦会
 15日(水) - 18日(土) 済州教区「聖母の夜」と聖地巡礼
 19日(日) 10:00 教区青年の集い(鈴鹿教会)
 20日(月) 11:00 青少年委員会(亀岡聖堂)
 21日(火) 15:00 (社福)カトリック京都司教区
 カリタス会 理事会

- 22日(水) 14:00 (学法)カトリック京都学園・
 京都南カトリック学園 理事会
 23日(木) 14:00 京都済州姉妹教区交流委員会
 24日(金) 13:30 四日市メリノール学院 理事会・
 評議会
 25日(土) 10:30 小教区評議会役員研修会
 (河原町教会)
 26日(日) 9:00 東舞鶴教会 ミサ
 11:00 聖母の小さな学校 さつき祭
 27日(月) 15:00 司教顧問会
 28日(火) 15:00 (学法)滋賀カトリック学園
 理事会
 29日(水) 10:30 司祭・司牧者集会
 15:30 司祭評議会
 31日(金) - 1日(土) 「殉教者に学びともに祈る集い」
 (横浜教区 松本教会)

京都カトリック青年センター 事務員紹介

2019年度、青年センターに勤める事務員の紹介をします。

唐崎教会 永井絵美梨

去年に引き続き今年も事務員をさせていただくことになりました、唐崎教会所属の永井絵美梨です。新しい事務員を迎えて、スタートをきりました。まだ、未熟な部分がありますが、様々な青年活動のサポートをしていけるよう頑張っていますので宜しくお願い致します。



〔青年センター-HP〕 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

唐崎教会 池田瑠智亜

春から青年センターの事務員になります池田瑠智亜です。中学生会や青年活動など私が楽しみにしていた京都教区の様々な行事を、裏から支えてみたいと思い事務員になりました。まだまだ分からないことだらけですが、一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します！



カトリック西陣教会内
 西陣青年会館3階 青年センター

青年センターあんでな